

平成24年度 公益財団法人大阪市博物館協会の外部評価

市立美術館の運営状況(総括)

【自己評価シート1】

館・所の使命

昭和11年(1936)に開館した伝統ある総合美術館として、作品の調査・研究や保存科学の実績などに基づいて、さまざまな国・地域・時代・作者に関する展覧会や講演会・講座などを開催し、それらを通じて市民の情操の向上を図りつつ、知的好奇心を刺激してひとりひとりの学習の支援をし、関西における「文化と美術の情報拠点」として魅力ある効率的な美術館をめざす。

指定管理期間の重点目標

総合美術館として、展覧会・教育普及事業や学習支援事業などの質的な内容の継承・発展ができるよう、次の6つの重点目標を設定して取り組む。(1)東洋美術の優れた収蔵品を基に、学芸員の深い知識と企画力を活かし、魅力あるテーマと充実した内容による特別展や平常展、市民が普段接することが難しい日本や海外の優れた美術文化に触れる機会となる特別展などの開催、(2)70年以上の長きにわたる活動で収集された館蔵品、社寺や個人などからの寄託品など、収蔵品の確かな保存・保管、(3)調査研究と保存・保管の実績に基づく当館への信頼関係に基づいた優れた収蔵品の拡充、(4)確かな情報の提供や普及活動による市民ニーズに応える生涯学習施設、(5)安全かつ快適な美術館、(6)東アジアを中心とした絵画・書・彫刻・工芸についての調査研究活動のさらなる充実。

運営状況の指標

	平成21年度(参考)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
職員総数(7/1現在)		18	19	18
市派遣職員		9	7	6
市OB職員		3	6	5
固有職員		0	0	0
契約職員		6	6	7
嘱託職員		0	0	0
収蔵品数	13018	13222	13153	13230
館蔵品数(3月末現在)	7880	7880	8164	8238
購入	0	0	0	0
寄付	67	0	284	74
寄託品数(3月末現在)	5138	5342	4989	4992
寄託	受558、返433 (+125)	受323、返119 (+204)	受108、返461 (-353)	受13、返11 (+2)
博物館事業参加者総数	277,091	166,866	287,011	226,907
常設展 展示替回数(決算)	10回 ()	11回 ()	8回 ()	9回
入館者数	13,631	21,414	5,293	12,140
特別展 回数(決算)	6回 ()	4回 ()	4回+〈特陳〉6回()	5回+〈特陳〉2回
入館者数	263,415	145,422	281,272	214,314
その他事業参加者数 ※	45	30	446	453
収入総額(千円)	—	344,184	373,250	375,307
市からの委託費	—	240,541	236,539	230,639
自己収入・その他	—	103,643	136,711	144,668
支出総額(千円)	—	346,574	358,296	393,572
管理費	—	248,540	262,197	278,747
事業費・その他	—	98,034	96,099	114,825
収支差額(千円)	—	▲ 2,390	14,954	▲ 18,265

《備考》 ※ 「その他事業」の主な事業名

21年度 ○美術館へ行こう(夏)

22年度 ○美術館へ行こう(夏、冬)

23年度 ○美術館へ行こう(春、夏、冬) ○障がい者の美術鑑賞会 ○地域連携コンサート

市立美術館の特徴

【自己評価シート2】

館の強みをどのように認識しているか

- 重要文化財43件、重要美術品34件を含む、日本美術・東洋美術を中心とする充実した館蔵品（総数約8000点）
- 国宝5件、重要文化財106件、重要美術品5件を含む、日本美術・東洋美術を中心とする充実した寄託品（総数約5000点）
- 少数ながらも、高い調査研究能力をもち、多様で豊かな発想を持った学芸員の企画力
- 伝統的なブランド力によって発揮される巡回展覧会などの誘致力
- 70年を超える歴史に基づいた総合美術館としての幅広い人的関係
- 交通便のよいターミナル・商業地区という集客に適した天王寺という立地、及び頑強な上町台地上にある立地。

館の弱みをどのように認識しているか

- 施設（本館：1936年建築）の老朽化への対応や、機械・設備等再整備の必要。
- 入館者の有料率の低下（平成24年4月より、特別展について65才以上の有料化を実施し漸次回復傾向にある）。
- 学芸員数の減少（現状学芸課長以下7名＜内1名は任期付学芸員＞、平成18年度比2名減＜定年退職不補充＞）
- 天王寺動植物公園内に立地していることから、アクセス等管理運営上の制約が大きい。
- 館蔵展示品収集事業費の復活や一般維持管理費など予算の抜本的見直しを図らねば、ジリ貧状態に移行する危険性。

環境（館を取り巻く諸条件）の変化をどのように認識しているか

- 大阪市立美術館の存在する天王寺・阿倍野地区の近鉄による大規模商業施設開発（平成26年度完了）。
- 阿倍野地区の近鉄百貨店アベノハルカス内に大型の美術館が開館する予定（平成26年度開館）。
- アベノQ'sモールの開店による、天王寺・阿倍野地区の活性化と天王寺公園活性化計画。
- 65歳以上の高齢者が人口の25%を超えるような高齢化社会の到来。
- 新世界商店街の観光地化の進展と通天閣開業100周年。

指定管理期間の成果

- 平成22年度において受変電設備の改修・取り替えにより、電力の安定的な供給をはかることができた。
- 平成23年度に展示環境を向上させるために、北館2階、南館1階、南館2階の展示ケース光源をLED照明に変更。
- 平成23年度に収蔵環境の改善のために、北収蔵庫の密閉度の向上を図る工事を行った。
- 歌川国芳展で、当館の働きかけにより新聞社2社との共催を実現し、観覧者の増加を実現した。
- 住吉大社展など地元大阪を中心とした大規模な美術展を開催し、地元との人的交流などを行った。

今後の課題として考えていること

- 施設整備中長期計画に基づく、必要な予算の確保
- 科学研究費申請団体の指定条件の確保
- 学芸員の増員配置と任期付学芸員の本採用化
- 購入による作品収集予算の復活と、作品修理予算の確保
- 有料率の回復に伴う大型巡回展覧会の誘致